

優秀賞

## 自分の思いが世かいにとどくように。

五泉市立五泉小学校 2年 高橋 一栞

わたしは、お話や文しょうを書くことが好きです。書いていると、考えていることがどんどん頭の中にかんできて、心の中がワクワクしてきました。きょ年も夏休みの自由かだいでかんそう文をかいて、とても楽しかったので、学校のろうかにはってあつた「言のは大しょう」のポスターを見たとき、書きたくてたまりませんでした。

きょ年の四月に、わたしはひっこしをしました。あたらしい友だち、あたらしいお家、あたらしいばしょ。あたらしいことばかりで、とても不安でした。だれをたよればいいのか、けがをしたらどうしよう。毎日がどきどきでした。でも、あたらしい友だちはわたしにやさしくしてくれて、とてもたのしい毎日でした。

一月に妹が生まれて、もうすぐで一年生がおわるころ、自分の生活は大きくかわりました。マスクをして学校へ行き、友だちときよりをとってすごして、手をつないだりプールに入ったりできなくてマスクをしていると苦しくて。わたしは、周りの人との間に、とうめいで見えないかべをかんじるようになりました。思っていることをしっかり話さないと、どんどんはなれていくかんじがしました。ニュースでかんせんした人の人数がでるたびに、ママやパパがかなしい顔をしているのが、とても、かなしかつたです。しかも、かんせんした人をさべつしたりする人がふえていって、どうしてこんなことになってしまったのだろう、と思いました。世かいの人たちも、人と人のかべをかんじているのかなと思います。

だれがわるいわけではないのに。わたしは、せかいに広がる「見えないかべ」は、自分たちからつくっているのではないのかと思います。今やるべきことは、「見えないかべ」をつくるのではなく、心はちゃんとつながっていて、またいっしょにいられる日がくるとしんじることです。